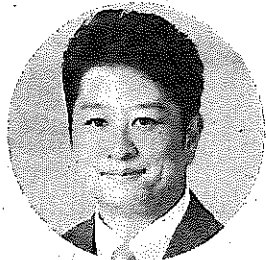


アプリ導入で「聞く防災」

県議会一般質問で中村氏



中村氏

県議会9月定例議会は30日、一般質問があり豊橋市選出の中村竜彦氏（自民）が登壇した。中村氏は東三河地域が産業グローバル化で多くの外国人労働者が就労し、県外からサーフィンなどを楽しむ人も多いことを踏まえ、外国人に対する

する防災啓発、土地勘のない海岸利用者の避難行動について質した。

県は「今年度、スマートフォンアプリの『ユニボイスフラインド』を活用し、『耳で聞くハザードマップ』を導入する予定。リスク情報を音声で伝え、日本語だけでなく英語、中国語など8カ国語で聞ける」と答弁した。

また「海岸利用者に迅速に避難してもらうため、津波規模、避難場所への経路が視覚的に表示されることが効果的。県は2016年度に『県避難誘導標識等設置指針』を定め、直観的に意味が伝わる図記号や方向矢印を用いた避難誘導標識などのデザインを市町村に示し、南海トラフ対策補助金により、整備を支援している」と話した。

中村氏は中高年の自殺者の深刻な状況を踏まえ、県の対策について聞いた。

中高年の自殺 予防へ相談拡充

県は「2023年に『第4期県自殺対策推進計画』を策定し、総合的に推進している。心の悩みについて電話やSNSを使った相談を受ける。40代、50代は職場の人間関係、職場環境の変化など仕事上の悩みを抱える人

が多い。毎年9月と3月に県労働協会と協働し、相談会を開いている。今後はさらに地元経済団体や労働団体とも協力しな

がら、こうした世代の人に向けた自殺予防の情報発信や啓発に力を入れる」と答弁した。

【安部文晴】